

経営比較分析表（令和2年度決算）

大分県 豊後高田市

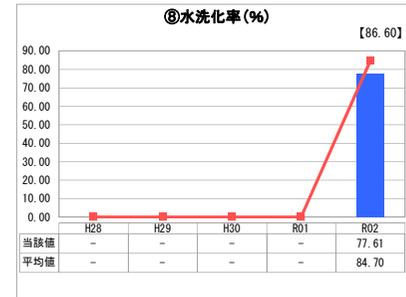
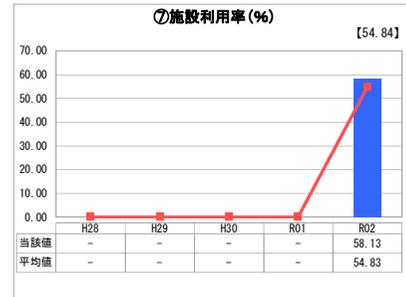
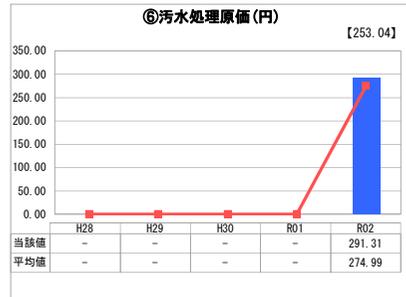
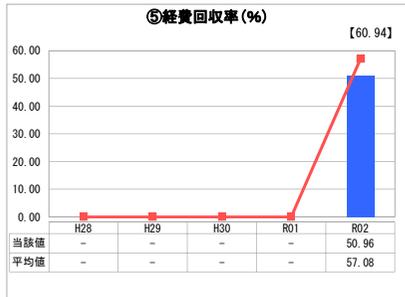
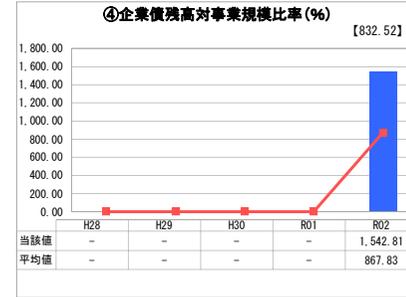
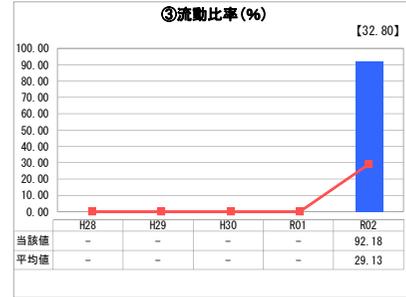
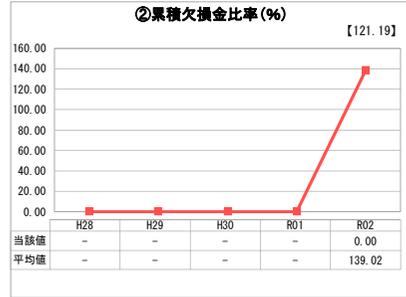
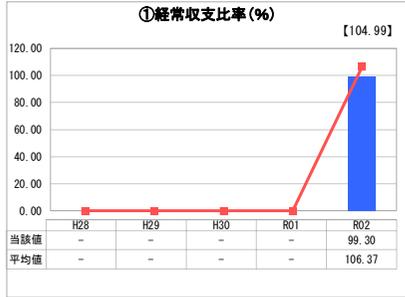
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	83.23	3.24	82.82	2,940

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
22,433	206.24	108.77
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
728	0.43	1,693.02

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

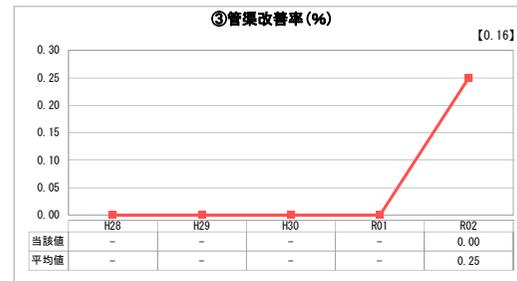
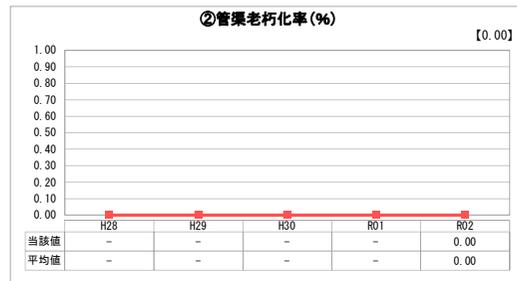
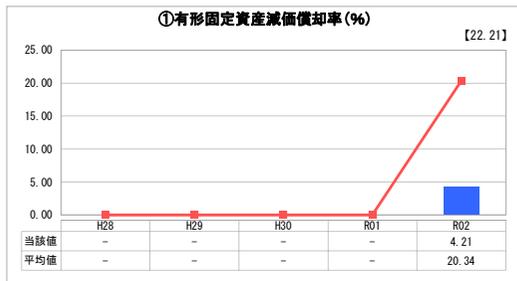
1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率：事業規模が小さく、使用料収入によって、施設の修繕費や維持管理費及び企業債支払利息等が随えおらず、一般会計からの繰入金に依存している状況となっています。
- ②累積欠損金比率：一般会計から繰入金により、欠損金は発生していません。
- ③流動比率：流動負債は、主に建設改良に充てられた企業債の元金償還等となっているものの、使用料収入で賄うことができず、一般会計からの繰入金に依存している状況となっています。
- ④企業債残高対事業規模比率：類似団体の約2倍となっており、施設整備に投資した経費に対して、使用料収入で賄うことができません。一般会計からの繰入金に依存している状況となっています。
- ⑤経費回収率：水洗化率が77%程度であることに加え、使用料改定（消費税による改定を除く。）も平成17年から行ってないため、使用料収入も低迷しており、類似団体と同程度となっています。
- ⑥汚水処理原価：事業規模が小さく、処理区域内人口は過疎化とともに減少傾向にあり、水洗化率もほぼ横ばいであるため、有収水量（使用料徴収の対象となる汚水量）が伸び悩み、類似団体と比較して高くなっています。
- ⑦施設利用率：平成16年度に施設整備事業が完了し、60%程度となり、類似団体と比較すると高い状況となっています。
- ⑧水洗化率：77%程度となっており、類似団体と比較すると低い状況となっています。

2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率：事業の開始時期が平成10年で、現在のところ更新が必要となる資産はありませんが、耐用年数を考慮し、今後の更新計画を策定する必要があります。
- ②管路老朽化率、③管路改善率：事業の開始時期が平成10年で、現在のところ更新が必要となる管渠はありませんが、耐用年数（50年）を考慮し、今後の更新計画を策定する必要があります。

2. 老朽化の状況



全体総括

集落排水施設の整備は、平成16年度に完了し、水洗化率は、徐々に増加しているものの77%前後と低迷しています。これは事業計画に基づいて建設した汚水処理場等が処理能力の77%しか活用されず、23%分が余力となっている状態です。今後も快適な住環境を維持するため、令和6年度には、隣接する特定環境保全公共下水道との統合を予定しており、施設の施設更新や維持管理に係る経費の低減化を図っていくこととしています。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管路老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。